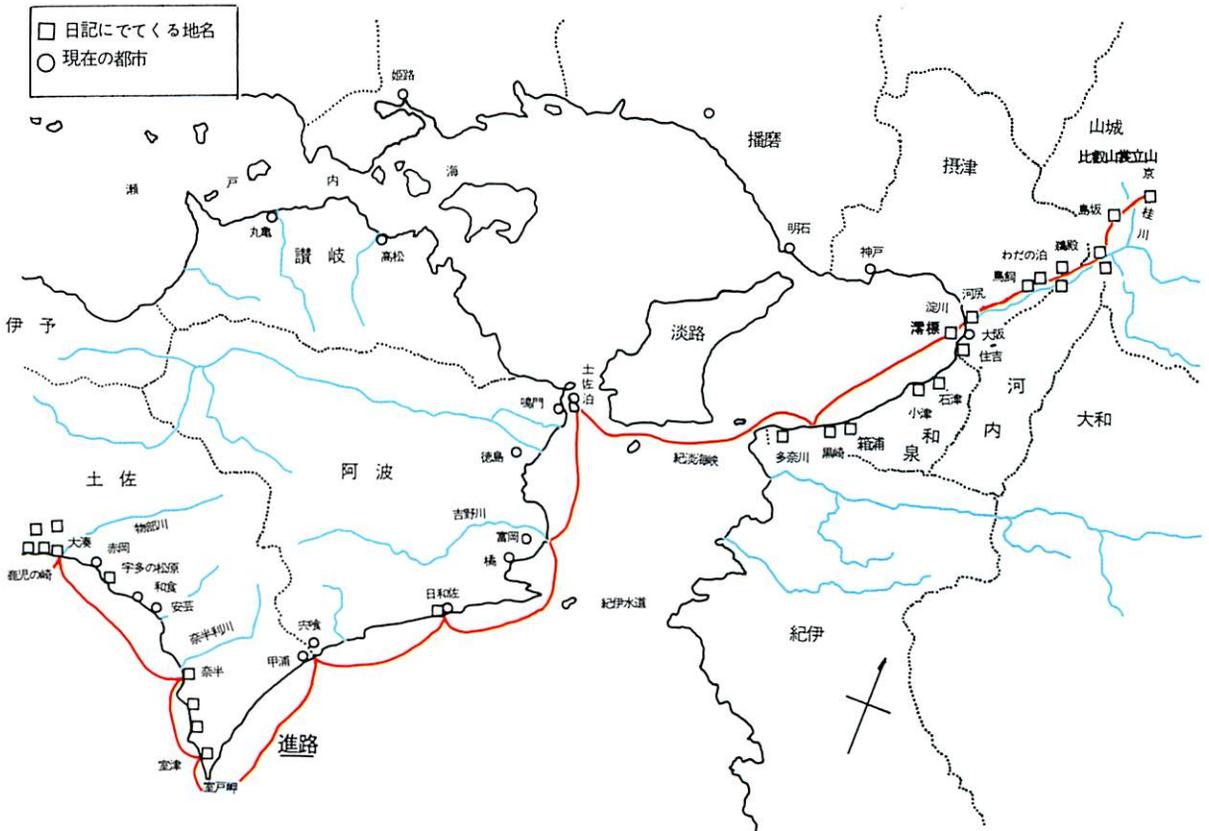


(5) 土佐日記の旅

いざ出発 男も書くと聞いている日記というものを、女の私もまねして書いてみようと思いたちました。この土佐の国から都へ帰る長い船旅の道中のことを書いておこうと思って、筆をとったしだいです。

この土佐の国に赴任^{ふにん}してきてから、はやいもので、もう足かけ5年になりました。国司の任期は4年。その4年が過ぎて、かわりの新しい国司が都から到着し、無事に引き継ぎ^つもすみました。引き継ぎがすんだしるしの解由状^{げゆじょう(1)}というものを受け取りました。そこで、いよいよ何年間も住みなれた国司の館^{やかた}をあとにして、船の^{ふね}でる大津(舟戸)の港まで、下ることにしました。

紀貫之関係地図



おおつ 浦戸へ
大津より浦戸へ

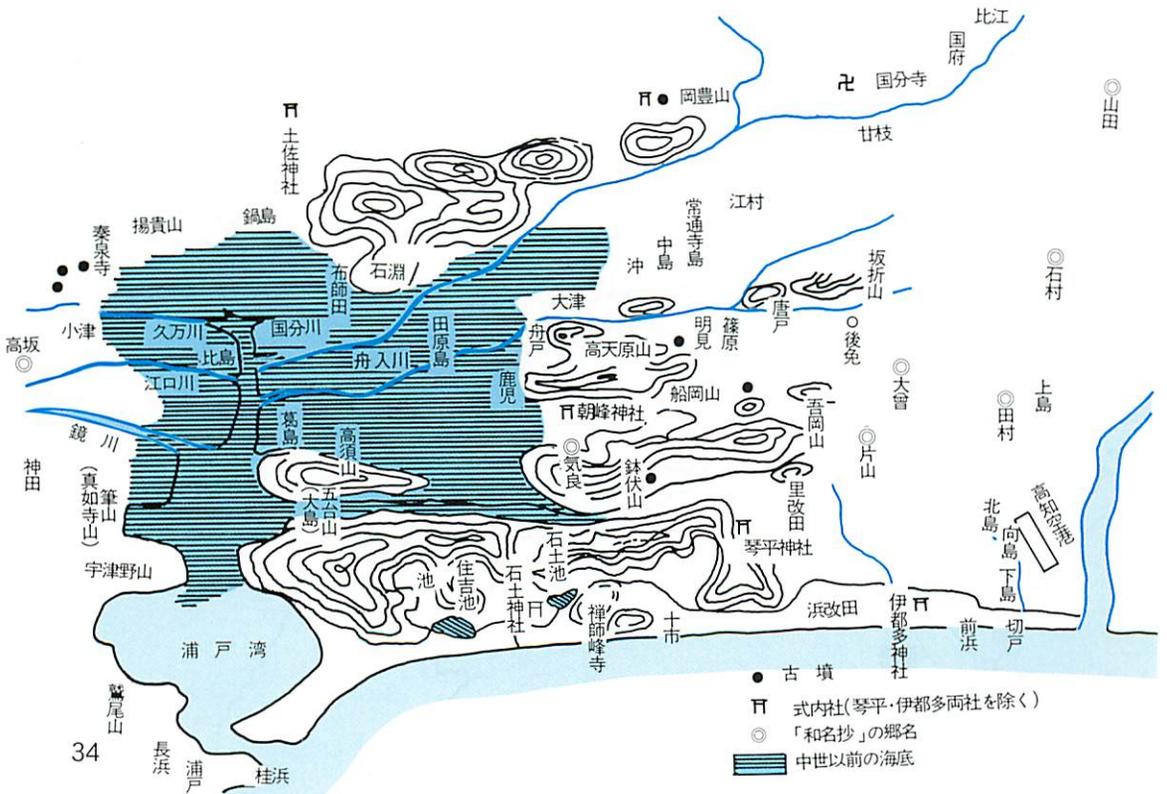
大津の港から、浦戸をさしてこぎだしました。

土佐の任地にいる間に、京の都で生まれたおさない娘をつれてきましたが、その娘が急病で、あっと思う間もなく死んでしまいました。娘のことを思い出すと、あの子ひとりつれて帰れないで、土佐のようなへんぴな地にうめたまま帰るのがかわいそうで、とてもたまらないのです。みんなが帰国の用意でいそがしそうにしているのを見ても、気がくじけて、指図をする気にもなりません。一行のほかの人たちも、その思いはおなじです。

みやこへと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり
あるものと忘れつつなほなき人をいづらと問ふぞ悲しかりける

この歌は、貫之が亡くなった娘のことを思い出し、歌に表したものです。

平安時代のころの浦戸湾（推定図）



おおみなと

大湊から 国府を出てから1週間。貫之たちは、ここ大湊⁽²⁾（南国市前浜）にて正月をむかえました。

大湊に着いた翌日から1月2日までの三泊は、大晦日から正月にあたるための碇泊^{ていはく}だったけれど、悪天候のためなどで、十日間も滞在^{たいざい}することになりました。

やがて、大湊をあとに海岸からも遠ざかり、別れをおしむ人々もそして自分たちからも見えなくなり、本格的に貫之たち一行^{いっこう}の船は沖合^{おきあい}にこぎ出していきました。船は奈半利^{なはんり}で泊り、そして室津^{むろつ}へ向かうと中、羽根岬^{はねみさき}を見て、次のように歌っています。

まことにて名に聞^はくところ羽^{はね}ならば飛ぶがごとくに

みやこへもがな

（この地名の羽根が本当の鳥の羽ならば、その羽に乗って、恋しい都へ早く飛んで帰りたい。）

大湊跡（南国市前浜）



那波港（奈半利川の川口港）



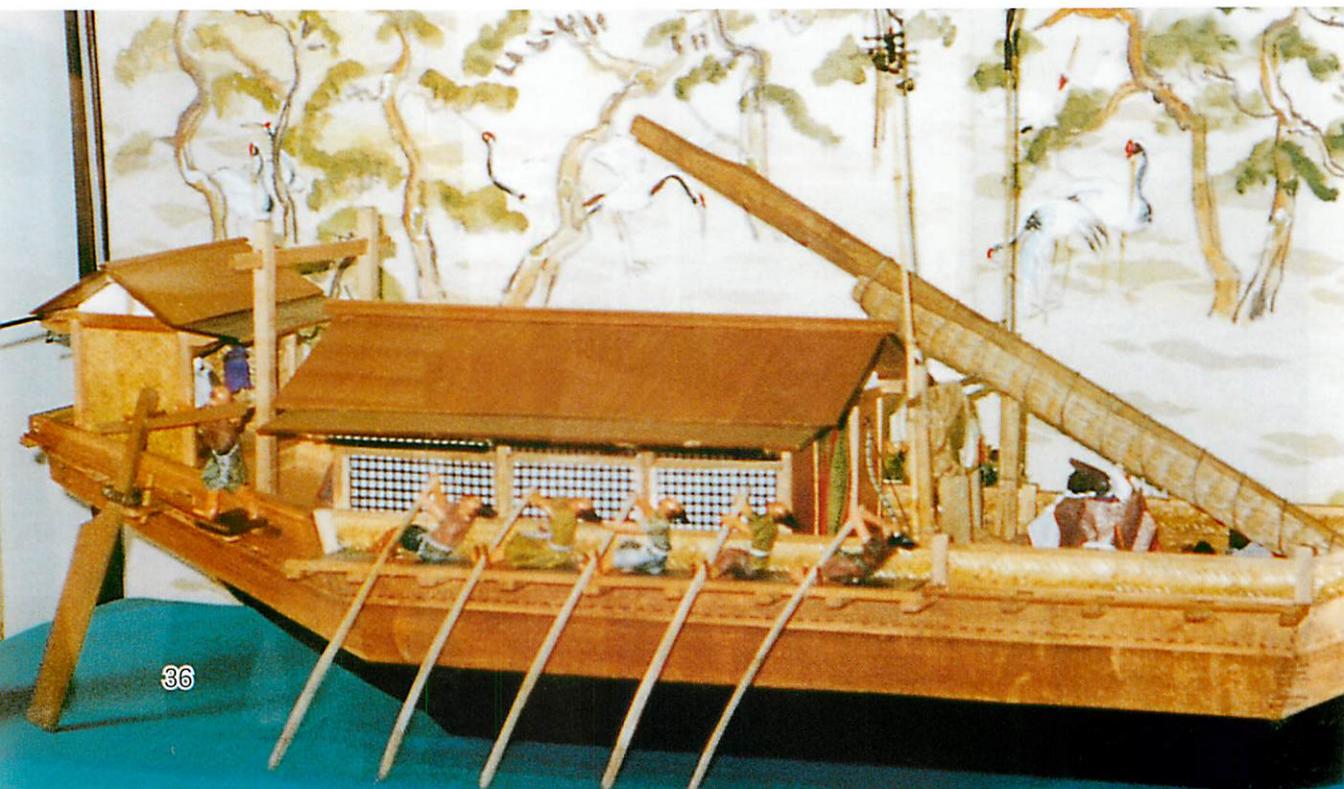
海賊かいぞくの出る海へ 貫之ひわさたちは、日和佐ひわさ（徳島県）に四泊はくしています。このあたりは、よく海賊しゅつぼつが出没し、多くのぎせい者がでているところです。貫之いっこうたち一行は、海賊に自分たちの船がねらわれているといううわさに、びくびくしていました。そして、安全を願って熱心に神や仏いのに祈り続けました。

ここ日和佐がも お た み さ きから蒲生田岬なんしよ（徳島県）までは、難所が多く待ちかまえているのです。海岸ぞいに行けば、岩礁がんしょうが点在し、海岸から遠く離れると、紀伊水道きいの潮流ちやうりゆうで、太平洋の大海原おおうなばらまで流されかねないのです。その上に、海賊の用心までもしなければならぬのです。

都への思いを打ち消すように、貫之は一日も気の安まる思いがありませんでした。あとはもう神や仏に祈るしかないのです。

貫之は決心をし、危険をおかしてまでも、海賊の襲撃しゅうげきをさけるための深夜しゅつこうの出航でした。

平安時代当時の船の模型



都へ 紀貫之たちを乗せた船は、難波^{なにわ}の港から淀川^{よどがわ}をのぼりはじめ、いよいよ都に近くなってきました。見なれたおなじみの風景が目いっぱい映ってきました。貫之の心は、うれしさでもういっぱいです。

ようやくなつかしい京都のわが家についた日は、2月16日。国府を出発してから、55日目のことでした。しかし、うれしさとともに、この家で生まれた女の子がいっしょにもどってきていないことが、ただ一つ、紀貫之にとってあきらめきれない気持ちとしていつまでも残っています。

土佐日記の最後の文には、次のように書かれています。

忘れ難く口惜しきこと多かれど、え^つ尽くさず

とまれかうまれ、とく^や破りてん

(忘れられないことや、心から消えそうもないことが多いが、とても書きつくすことはできません。でも、こんな日記は、はやく破りすてることにしよう。)

注(1) 解由状^{げゆじょう} 国司交代の際、前任国司から後任国司への事務引継ぎをする時に、国司としての不正がなかったことを証明するものとして後任国司からもらう。

(2) 大湊^{おほみなと} 日記の本文から、浦戸と奈半利の間というだけで、現在のどこかわかっていない。推定地は、種崎・池・十市・前浜・夜須・手結などがあるが、旧物部川河口近くの前浜説が有力である。

『土佐日記』55日間の全旅程表

12月21日 (1月31日)	1	国府→大津泊●午後8時頃門出する。
22日 (2月1日)	2	大津泊●航海安全を神に祈願。錢別あり。
23日 (" 2日)	3	大津泊●「やぎのやすのり」という人から錢別あり。
24日 (" 3日)	4	大津泊●国分寺の僧師からの錢別がある。
25日 (" 4日)	5	大津→国府泊●新任国司の送宴に国府に戻る。
26日 (" 5日)	6	国府→大津泊／歌2首●国府から大津へ戻る。
27日 (" 6日)	7	大津→鹿児島→浦戸泊／歌4首●途中鹿児島に寄る。
28日 (" 7日)	8	浦戸→大湊泊●「うらどよりこぎいでて」大湊へ。
29日 (" 8日)	9	大湊泊●医師が屠蘇、白散、酒を差し入れる。
1月1日 (2月9日)	10	大湊泊●元日のため出航せず。
2日 (" 10日)	11	大湊泊●僧師の食物や酒の差し入れあり。
3日 (" 11日)	12	大湊泊●海が荒れる。「おなじところなり」
4日 (" 12日)	13	大湊泊●荒天が続く。「かぜふけば、えいでたらず」
5日 (" 13日)	14	大湊泊●荒天が続く。「ひとびとたえずとぶらひにく」
6日 (" 14日)	15	大湊泊●荒天が続く。「きのふのごとし」
7日 (" 15日)	16	大湊泊／歌3首●荒天。池から長櫃のご馳走届く。
8日 (" 16日)	17	大湊泊／歌1首●障ることがあって碇泊。
9日 (" 17日)	18	大湊→〔宇多〕→奈半泊／歌4首●朝早く出航。
10日 (" 18日)	19	奈半泊●前日の早朝から夜半までの疲れを癒す。
11日 (" 19日)	20	奈半→〔羽根〕→室津泊／歌2首●午前5時頃出航。
12日 (" 20日)	21	室津泊●随行の船を待つため碇泊。
13日 (" 21日)	22	室津泊／歌1首●未明に降雨有り。女たち沐浴する。
14日 (" 22日)	23	室津泊●夜明け前から雨が降るので碇泊。
15日 (" 23日)	24	室津泊／歌1首●悪天候。小正月の小豆粥を煮ず。
16日 (" 24日)	25	室津泊／歌1首●風波やまず出航できない。
17日 (" 25日)	26	室津泊→〔御崎〕→(津呂)泊／歌2首●黒雲出て引き返す。
18日 (" 26日)	27	(津呂)泊／歌3首●荒天のため出航できず。
19日 (" 27日)	28	(津呂)泊●悪天候のため出航できず。
20日 (" 28日)	29	(津呂)泊／歌2首●前日と同じ悪天候のため碇泊。
21日 (3月1日)	30	(津呂)→〔御崎〕→(野根)泊／歌2首●午前6時頃出航。
22日 (" 2日)	31	(野根)→(日和佐)泊／歌2首●別の港に向け出航。
23日 (" 3日)	32	(日和佐)泊●海賊が出るというので神仏に祈る。
24日 (" 4日)	33	(日和佐)泊●「きのふとおなじところなり」
25日 (" 5日)	34	(日和佐)泊●北風悪しく船出さず。
26日 (" 6日)	35	(日和佐)→〔鹿ノ首岬〕→(答島)泊／歌2首●夜半出航。
27日 (" 7日)	36	(答島)泊／歌2首●風吹き波荒くて出航せず。
28日 (" 8日)	37	(答島)泊●「よもすがら、あめやまず。けさも」
29日 (" 9日)	38	(答島)→〔小松島〕→土佐泊／歌3首●好天、出航。
30日 (" 10日)	39	土佐泊→〔沼島、たな川〕→灘泊●海賊を避け夜半出航。
2月1日 (" 11日)	40	灘→〔黒崎、箱浦〕→(佐野・貝塚)泊／歌2首●和泉北上。
2日 (" 12日)	41	(佐野・貝塚)泊●雨風やまず、夜通し神仏に祈る。
3日 (" 13日)	42	(佐野・貝塚)泊／歌1首●荒天で出航できず。
4日 (" 14日)	43	(佐野・貝塚)泊／歌3首●船頭の天候見誤りで碇泊。
5日 (" 15日)	44	(佐野・貝塚)→〔大津、石津、住吉〕→濤標泊／歌5首●出航。
6日 (" 16日)	45	濤標→〔灘波〕→河尻泊／歌1首●淀川の河口に至る。
7日 (" 17日)	46	河尻→(江口)泊／歌2首●淀川を漕ぎ上る。
8日 (" 18日)	47	(江口)→鳥飼泊●前日に続いて遡上に苦勞する。
9日 (" 19日)	48	鳥飼→〔曲、渚〕→鶴殿泊／歌3首●船を曳いて上る。
10日 (" 20日)	49	鶴殿泊●「さはることありて、のぼらず」
11日 (" 21日)	50	鶴殿→山崎泊／歌1首●山崎の橋が見える。
12日 (" 22日)	51	山崎泊●「やまざきにとまれり」
13日 (" 23日)	52	山崎泊●「なほやまざきに」
14日 (" 24日)	53	山崎泊●「あめふる。けふ、くるま、京へとりにやる」
15日 (" 25日)	54	山崎泊●京より車来る。船からある家に移る。
16日 (" 26日)	55	山崎から夕方京へ出発。→〔 magari 島坂、桂川〕→京着／歌5首